

きょういく【安平町教育大綱・第4期安平町生涯学習計画・安平町こども計画（第3期子ども・子育て支援事業計画）】（案）について

本計画（案）について、貴重なご意見をいただきありがとうございました。
意見募集の結果について下記のとおり取りまとめましたので公表します。

1. 募集期間 令和7年3月5日（水）～令和7年3月25日（火）
2. 意見提出 3名16件
3. 意見対応

①意見を反映するもの又はすでに反映しているもの	6件	②意見の一部を反映するもの	1件
③今後の検討の参考とするもの	2件	④質問・意見	7件

	意見等の要旨	分類	意見等の対応・考え方
1	教育についての計画（方向性）づくりに町民が参加するこの試みに賛同します。例えば真鶴町まちづくり条例「美の基準」が町民（老若男女、地元の方、移住者）が共に町の風景の価値を守りよりよく創造していくための拠り所となっているように、『きょういく』も育っていくことを期待します。	④	ご意見ありがとうございます。CFCIと子どもの意見表明権を主軸に置き、計画策定段階からの子ども・大人の参画を目的に策定を行っております。今後も本計画は策定して終わりではなく、時代や安平町の背景に沿って「きょういく」を改訂・見直しを想定しています。
2	川崎市では「子どもの権利に関する条例」があることによって、首長が変わっても子どもの権利を尊重する方向性を見失うことなく政策を進めることができたと聞きました。この「大綱」「計画」が「条例」に比べてどの程度政策に影響を与えることができる位置づけになるのかが気になっています。	①	おっしゃるとおり、本計画だけではなく、条例として子どもの権利を尊重することの重要性を認識しており、そうした条例の制定の必要性があると考えています。子どもの権利に関する条例については、令和7年度に制定に向けて動き出すことから、P19「こどもまんなか社会に向けた機運醸成」においても明確に記載させていただきます。
3	「数値目標」が「重点目標」を測る指標としては不一致という印象を受けました。どのように目標達成度を可視化していくのかはとても難しい問題ですので、今後の課題と感じます。	③	指標の不一致という点について、ご意見いただいたとおり、生涯学習は目に見える成果が出にくいなど、目標達成度を可視化していくことの難しさがございます。幼少期に学んだ「ふるさと教育」が5年・10年を経て、郷土愛を育み、地元就職やUターンに繋がるなど長期的効果をもたらす

			ものであると推測されます。まずは計画を進めながらになるかと思いますが、中間評価などによって、適宜修正を加える必要があるか検討してまいりたいと思います。
4	該当箇所：20ページ「初等前期中等教育への参加（小・中学校）」 意見内容：「安平の持つ資源や特性を活かし」とは何かを具体的に示して欲しいです。 理由：安平町の持つ資源や特性を活かした学習で現在実施されているものは何か。また今後どのような取組を実施していくのか不明で伝わりづらいと思います。 安平町でしか体験できないような独自性のある取組の実現を期待しています。 都会にはない自然や多様な一次産業を最大限活かし、特に小学校低学年は五感で感じ心を育てる活動等を取り入れていくことで、学習能力の向上、小1プロブレム解消にも繋がると思います。	④	「安平の持つ資源や特性を活かす」具体的な取り組みとして、大きく2つ実施しています。1つは地元産業に関連する学習活動です。「馬学習」や「メロン学習」などは安平町の地域性だからこそ経験できる学習です。もう一つは、「あびら教育プラン」と連携した総合的な学習の時間の推進です。社会教育事業である「あびら教育プラン」と学校教育をつなげ、先生以外の大人が講師となり学びを深め展開していきます。この学びにはCFCIの考えが根底に流れているため子どもの意見表明や遊びも大切にしたい学びです。ご意見いただいた低学年の自然体験はまさに五感をつかった遊びとつながるため、取り入れられるよう検討していきます。
5	該当箇所：32ページ「子ども・若者等の心身の健康づくり」 意見内容：学校給食センターの地元食材使用についての数値目標を項目に加えてほしいです。 理由：町内にはお米、野菜、畜産物等多様な生産物があります。地元食材率を高めることは健康の増進や食育、輸送コストの削減、フードマイレージを減らし環境負荷の低減、地域活性化にも繋がると思います。	③	ご意見ありがとうございます。 食材の選定においては、その土地で旬のものを食べることが健康に良いと考え、また、地元の農畜産物を地元で消費することを推進しています。現在、給食センターでは、すべての設備・機器を電気で賄っており、地元食材の積極的な使用により、運搬にかかるCO2排出を低減させるなど、SDGsにも配慮した取り組みを行っています。 本計画における数値目標の設定については引き続き検討を進めますが、安平町の食育推進計画である「健康あびら21」とも整合性を図りながら、地元食材の活用や食の大切さを広く伝えられる方法を検討してまいります。
6	「子どもにやさしいまちづくり事業」について 全児童生徒に対し「子どもにやさしいまちづくり」「子どもが当たり前前に意見できるまちづくり」「子どもが安心して遊べるまちづくり」など実感しているのかアンケートを実施し公表する必要	④	貴重なご意見ありがとうございます。 ご指摘の通り、「本当に子どもの意見が反映されているのか、誰でも意見が言えるような仕組みがあるのか」という点については、現状の仕組みが十分に透明化されていると

	があると思います。 この事業の実行性が不透明でわかりづらいです。本当に子どもの意見が反映されているのか、誰でも意見が言えるような仕組みがあるのか疑問があります。		は言えないかもしれません。本計画においても掲載しているとおり、引き続き、庁舎内外におけるCFCIの理念や考え方について浸透させていくとともに、新たな仕組みとしてオンラインの手法などを取り入れ、子どもの声なき声を拾う取り組みも進めていながら課題解決を進めていくこととしています。
7	P4【はじめに ストーリー】修正の提案 原案「わたしたちが作ったとはどういう意味だったのだろうか」 修正案「わたしたちが作ったとはどういう意味だろうか」 理由…母がわたしに言った直後に感じたことなので。	①	ご提案いただいたとおり、文言を修正いたします。
8	P6【計画の趣旨】修正の提案 本文6行目「そのためには、」の後に「子どもと大人の両方が」を追記 理由…本計画が生涯学習計画も含まれており、子どもと大人の両方が学べる環境をつくることが大切であると思いました。	①	ご提案いただいたとおり、文言を修正いたします。
9	P6【計画の趣旨】質問 本文13行目「自分らしい人生を送るための力」と15行目「人生をより豊かにする力」とは、それぞれ具体的にどのような力のことをイメージしていますか。違いがよく分からないため重複感があります。	④	「自分らしい人生を送るための力」個人の主体性と自己実現に焦点を当て、自分の個性や価値観に基づき、目標を設定し、困難を乗り越えていく力です。安平町では、CFCIによる意見表明の重視や、「あびら教育プラン」による主体的な学びの支援を通じて、この力を育むことを目指しています。 「人生をより豊かにする力」他者や社会とのつながり、多様な経験による充実感に焦点を当て、人間関係を築き、社会に参加し、生涯にわたって学び続けることで人生の質を高める力です。安平町では、市民活動や社会貢献活動の支援、異文化交流の促進、生涯学習の支援を通じて、この力を育むことを目指しています。 違いとしては、「自分らしい人生を送るための力」が個人の内面的な充実と行動力を重視するのに対し、「人生をより豊かにする力」は他者や社会との関係性を通じた充実感

			や経験を重視しています。
10	P8【安平町教育目標】修正の提案 安平町教育目標の2つ目の柱について 原案「豊かな個性と感性を伸ばし、生きる力を育む教育」 修正案「一人ひとりの豊かな個性と感性を伸ばす教育」 理由…「生きる力」とは何を定義しているのか曖昧で伝わりにくく、実現に努めると言っても共通認識に立ちづらいので、「生きる力」という言葉に頼らない表現が良いです。（文部科学省の「生きる力」の定義「知・徳・体のバランスのとれた力」は理想論すぎて、努力する方向性（目標）としては結局何を目指してやっていけば良いのか分かりづらいと思います。）	④	「生きる力」という言葉の定義が曖昧で伝わりにくく、具体的な目標として共通認識を持ちづらいというご意見であると認識しました。確かにそのような一面もあるかと思いますが、「生きる力」という表現には、知識だけでなく、社会で自立して生き抜くための幅広い能力を包括しているという重要な意味があります。また、安平町における「生きる力」とは、子どもたちが将来に希望を持ち、様々な困難や課題に直面しながらも、他者と協働し、自らの考えと行動によって未来を切り拓き、歩んでいくために必要な力と捉えられているため、引き続き「生きる力」を育む教育を進めていきたいと考えています。
11	P9【体系】修正の提案 ビジョン「豊かな人が育つまち」のイラストが大人の男女であり、そこに至るまでの「視点」としてCFCI（子どもにやさしいまちづくり）である構図に違和感があります。 P44「子どもの権利条約とCFCI」には、「子どもたちが健やかに成長・発達し、一人の大人と等しい存在として認められること」が約束されている旨記載があり、「大人と等しい存在」ということが重要です。 「CFCIの視点（子どものイラスト）」から「豊かな人（大人の男女のイラスト）」に矢印が伸びている構図は、「豊かな大人」になるために「子ども時代」がある印象を与えます。そうではなく、大人も子どもも今、豊かに過ごしながら育っていく対等な存在として、ともに成長・発達していけることが目指すべき姿だと思います。 安平町が目指す「豊かな人」とは、大人だけではなく子どもも含まれているはずで、また、生涯学習計画でもあることから多年代の方々、多様な方々がイメージにあがって良いはずです。 さらに付け加えるならば、子どものイラストが、しゃがんで小さ	①	子どもの権利条約やCFCIのほか、各種考え方について、ご指摘のとおりであり、イラストについても「子どもの意見表明権」をより直観的に理解できるものに差し替え、子ども・大人問わず、すべての町民にとって「やさしいまちづくり」を展開する計画をイメージすることができるよう修正させていただきます。

	くなっている姿であり、「子どもは小さくて弱い立場」という誤った認識・イメージに繋がりがねないため、変更する必要があります。		
12	P11【あびらのきょういく】質問及び提案 「自分をつくる」「自分を生きる」の前にそれぞれ、「自分で」「自分が」という文言を入れている意図を知りたいです。 一人ひとりがそれぞれに思い描く幸せを実現するために、自ら学び、自ら考え、判断し、行動する姿勢や意欲は大切だと感じますが、それは必ずしも「自分だけ」「1人で」「個人で」努力する修行の道を歩む必要はなく、近くにいる人や信頼できる人と支え合って、励まし合って、安心した気持ちをベースに、学んだり、チャレンジしたりする姿であっても良いと思います。 「自分で」「自分が」を強調することにより、個人主義的で「一人ひとりが頑張らなければならない」「頑張らなければ自己責任」といった印象に繋がると思うので、「共同体の中にいる個人」としての印象も残るように「自分で」「自分が」は削除してはいかがでしょうか。	④	ここで記載されている内容は、P5やP9で示している本計画「ビジョン」となります。 「自分で自分をつくる」「自分が自分を生きる」といった表現方法を採用した意図としては、学びの開始は受動的ではなく町民自らが行動することを目標としております。 （受動的な学びを否定するものではない） 生涯学習（社会教育）を行うものは町民であり、一人ひとりが豊かになっていく状態、すなわちまちづくりを行うものは行政のみではなく、安平町に住む町民全員であることから、自らの考え・行動こそがまちづくりの第一歩であるため「自分で」自分をつくる、「自分が」自分を生きるという表現をしています。よって、ここでは「個人」で行動するといった意味合いは指しません。個人学習で得られるものもあれば、集団学習で得られるものもあると考えており、その手法・選択においても町民自らが選択できることが理想であると構想しております。
13	P11【あびらのきょういく】質問 このページで突如「公教育」という言葉が出てきて、その範囲について言及していることに違和感があります。 「公教育」という言葉を使う（又は説明する）意図を教えてください。 また、その説明文の中で「安平町教育理念の中で」とありますが、安平町教育理念というのは端的に言えばどのようなものでしょうか。	②	公教育＝学校教育と捉えられる傾向がありますが、社会教育や家庭教育であったり、行政以外の各種団体が行う教育的事業も公（おおやけ）な場での教育とも捉えることができます。そうした意味で、認識を揃えたいという意図があり説明をさせていただきました。そのうえで、各種用語の説明に際し必要であると判断したためこの言葉を用いています。 安平町教育理念は、上段に記載させていただいている「安平町内の様々な学びの中にある価値観や文化、知識に触れながら、町民自らの人格を成長させていくとともに、自分らしく生きていくことを生涯にわたって実感することができる教育環境のこと」を指しています。先般「日本一

			の公教育」と謳い、教育行政を推進しておりますが、この理念について、より理解得られる文言・内容の記述を求め るご意見が教育まちづくり委員会等にてご意見をいただいた経緯がありましたので、「あびらのきょういく」と表現 しております。 ご意見とは直接的には関わりませんが、「公教育の範囲」と いう項目を「公教育とは」へと文言修正することで、意味を 説明しているという意図をより明確にします。
14	P11【あびらのきょういく】質問 「教育の定義」で「安平町が大切にする価値観」という言葉がありますが、これは端的にどのようなものでしょうか。 また、「学びの中に埋め込み」という表現が「埋め込む側（提供者、教育の主体者）」を連想させ、続く「町民が自らの資質を育成する」という学び手主体の表現と矛盾を感じました。結果的に何を言い現わしたいのか分かりづらいです。 さらに、「教育の定義」を「～自分らしく生きていくこと」という文末で閉めており、教育によって期待される効果の説明になっています。教育の定義は「教育とは～を行うこと」という文になるかと思います。	①	安平町が大切にする価値観は「自分で自分をつくる」「自分が自分を生きる」というビジョン内容と同様です。町民が自らの資質を育成し、生涯にわたって自分らしく生きていくことを重視する考えです。 ご指摘の部分については、伝わりづらい文章となっており ましたので、「教育の定義」を次のように修正いたします。 「安平町の公教育を通じて、文化や知識、地域の伝統や価値観などを学びながら、町民が自分の力を伸ばし、人生を通じて「自分らしく生きる」という目標を達成できるようにすること。」
15	P11【あびらのきょういく】質問及び意見 「目指す姿」が「町民それぞれが幸せに感じている状態」とありますが、ビジョンが「豊かな人が育つまち」なのであれば、目指す姿も「豊かな人」であるはずではないでしょうか。「豊かな状態」とは人によって解釈が異なるため、安平町が目指している「豊かな人」とはどういった状態にある人のことを指して、「豊か」という言葉を使っているのか、ここで明確に示す必要があるかと思いました。	④	ご指摘のとおり、「豊かな人」については、一人ひとりの目指す姿は十人十色であり、教育行政側からご提示する姿ではありません。よって、本計画で謳う目指す姿「豊かな人」とは、町民それぞれが「幸せ」と感じている状態こそが「豊かな人」の1つのあり方であると設定しております。（よって、「豊かな人＝町民それぞれが「幸せ」を感じている状態」と解釈が可能となります）
16	P11【あびらのきょういく】質問及び意見 「教育の対象」について、一般的には「教育を施す者」と「施される者」というイメージがありますが、対象が「個人ではなく、	①	安平町では、「教育の対象」は、教育を受ける個人ではなく、「公教育が展開される場」、つまり環境全体のことを指しています。

	場のこと。」という意味がよく分かりませんでした。 また、「その場の持つ雰囲気や状況、在り方」という言葉も聞き慣れないため、よく分かりませんでした。教育に関する知識を専門的に持っていない町民にも分かるような説明文に変更してほしいです。	これは、直接的に教え込むのではなく、町全体の雰囲気や提供される機会を通して、安平町が大切にする価値観（自分で自分をつくる、自分が自分を生きる）が自然と身につくようにすることを重視しているためです。 町全体を一つの大きな学びの場と捉え、その場の雰囲気や状況、人々の関わり方などを、誰もが豊かに成長できるようなものにしようとしていると整理できます。 わかりやすい表現となるよう修正いたします。
--	--	--